こがね丸（或は其時代の小波お伽噺）を讀んだ時の感想

あまりに古いことで（昔の話）、記憶は甚だおぼろげですが、私供は、初めて自分の心にピッタリ合ふ読物を得たよろこびを感じたことを未だに忘れません。あの頃は全く発売の日を待ちかねて… …深く感じて読物を… …私が…

御名 高信峡水

…報おゆるし… …中止… 其の当時小学校の本の中に日本の犬が外国の虎の…の中に入れられても最後迄闘って虎の餌食となったと云ふ所がありましたので、聴水の狡猾、鷲郎の…快、金時の猛威を学んであることから見て本当にこがね丸の様な犬が居る様な気がしてなりませんでした

杉浦…男

杉浦真鐵

…て …よろしい。たゞ…夢中でよみわけり… …果ておいて先生の…が二三年…ならば私たちの…作の…とんとん不幸な…を送ったかも知れません。

御名 高尾亮雄

…の形式を以て氏を表彰するをお忘れではならない。黄金丸は氏の創造の第一歩と思ふ、併し馬琴の稗史等の時代の色彩が濃く現はれてゐるから…みて考へると一層面白い。又犬の主人公かな牛や嵐や兎等を見方として…の虎や狐を敵として戦ふ…も実に…人道と戦…勝った感があ…

…げるすがてきません

…申上…

御名 下田次郎

御名 （印）宮…

…ささえて…ぬ…記憶に…

御名 岩崎…

御名 …光…

尋常中学三年か四年の頃、浅草の仲店で…を買って… …夢中になって読みました。…学校へ持って行って受持教師に見付かり、叱かれるかと思ったの外、斯様な本を読んで居るのは感心だ、と同級生の前で褒められたものでした。… …時代からは五六十年の…を…ら…ぬ…を申上げます。

こがね丸（或は其時代の小波お伽噺）を讀んだ時の感想

御名 島村民藏

…先生の…言風を…… …先生方…の…に…いて…有五年に…… …三十年以前の…の…の…年でお伽噺を…読んで…幸福の…かったことを…に思ふ

こがね丸（或は其時代の小波お伽噺）を讀んだ時の感想

御名 …

あれがはじめてです 面白くて… 何回も読んだとおもひます… ありません… …十二冊… …なん…ございません

御名 高野つる枝

…ます 其の年の夏から…大学… …に入り天城には…でしたから… 晩春か初夏かと思ひますが季節は除きます

小笠原長生

こがね丸真んまるう…花乃…

御名 …

…物とも…草双紙のものばかり…頃で時めいた…先生の…様…小波先生のもので…土産に贈られて[redacted]小供心にも大変に…と思いました…正直…其… [redacted] …は…先生の…擬人画が面白く…判断… …やら…

…返事がおそくなり申候

岡野栄

…答仕兼候

御名 …賀童…